

「親愛なる寺田先生 ～師・寺田寅彦と中谷宇吉郎展～」

高知県立文学館 主任学芸員 永橋 禎子

昨年、2015年は寅彦没後80年の記念の年であり、また今年、2016年は寅彦門下の科学者・中谷宇吉郎が世界で初めて人工雪の製作に成功して、80年の記念の年になります。

高知県立文学館では、この記念の年に、「親愛なる寺田先生～師・寺田寅彦と中谷宇吉郎展～」(2015年12月6日～2016年1月31日)として、二人の師弟の足跡を紹介する企画展を開催しました。この展覧会は、もともとは石川県加賀市にある中谷宇吉郎雪の科学館で開催された「中谷宇吉郎と寺田寅彦展」を、前雪の科学館館長の神田健三氏の監修の下、高知で再構成したものです。

展示は三つに分かれています。一つ目は寅彦と宇吉郎のふるさとやお勧め随筆を紹介した「寺田寅彦と中谷宇吉郎」で、主にロビーでの展示です。

次は「師弟の出会いと交流」というコーナーです。寅彦と宇吉郎という二人の師弟がどのように出会い、どのように親交を深めたのかを、さまざまな角度から窺いました。年譜と共に愛用品を紹介した「寅彦・宇吉郎について」、二人の親交のきっかけとなった「球皮事件」と「火花放電」の研究、宇吉郎の雪の研究を紹介した「宇吉郎の北大赴任と雪の研究」、二人が愛した芸術を紹介した「絵画・随筆」の四つのコーナーに分けてご紹介しました。

三つ目は、二人の名言を紹介した「言葉」です。「天災は忘れられたる頃来る」「雪は天から送られた手紙である」など、師弟の研究や交流から生まれた名言や、今に伝わる二人の言葉、そしてそれにまつわる資料をご紹介します。

それ以外にも、Intermezzo(間奏曲)として、寅彦と宇吉郎の世界を、さまざまな視点でご紹介しました。たとえば、現代美術作家のmamoru氏のご協力のもと、寅彦の随筆「病院の夜明けの物音」をモチーフとした作品の展示や、雪のデザイン賞過去受賞作品紹介、世界結晶年(International Year of Crystallography、略称IYCr 2014)とからめた結晶研究の歴史と寅彦・宇吉郎の業績のご紹介、師弟の名を冠せられた二つの小惑星「Torahiko」(1987年11月25日 芸西村で発見)、「Ukichiro」(1994年9月11日 清里で発見)のご紹介、寺田寅彦の新資料を初公開したコーナー、宇吉郎が製作した科学映画「雪」上映などです。

資料を通して、宇吉郎がいかに寅彦のことを尊敬していたのか、また寅彦の宇吉郎に対する励ましの気持ちを窺うことができ、二人の交流がとても親しく、温かなものであったことが感じられました。

さまざまなイベントも開催しました。神田健三氏に来て頂いて行った記念講演「寅彦と宇吉郎」(2015年12月12日)では、師弟の交流に加え、寅彦のふるさと・高知と、宇吉郎のふるさと・加賀の人々がこれまで培ってきた交流の軌跡も紹介されました。そして講演が終わったあと、会場のあちらこちらでさまざまな方々の交流が広がっていたのが大変印象的でした。今回の展覧会が、新たな交流のきっかけとなったことは、本当に嬉しく思います。

また、同じく神田氏を講師として迎えて行った「雪と氷のふしぎ実験」(12月13日)では、寺田寅彦記念館友の会の皆様が事前にレクチャーを受けられ、お手伝いとして参加してくださいました。お客様は小さいお子様からご年配の方まで、幅広い世代の方にご参加いただいていたのです。

が、友の会の皆様が参加したお客様のお世話を焼いてくださったお蔭で、滞りなくイベントを進めることができました。心より感謝申し上げます。

展示やイベントを通して感じたのは、寅彦・宇吉郎のファンの方に、非常に熱心な方が多いということです。来た方とお話をしていると、寅彦や宇吉郎について大変詳しい方が多く、いろいろと教えていただいたことも一度や二度ではありません。また、資料の借用などでも神田氏や北海道の山崎敏晴氏をはじめ、さまざまな方にお世話になりましたが、どの方も寅彦や宇吉郎を紹介するためなら、と、いろいろと心を砕いて下さり、本当にありがたく思いました。さらに、展覧会の直前に新しい資料が見つかるなどの出来事があり、新資料を皆様に紹介できたのもとても幸運だったと感じました。

こうした皆様の思いをきちんと受け止め、今後も寅彦やその周囲の方々のことを多くの人に知っていただけるよう、これからも頑張りたいと思います。



実験イベント風景

展示室の入口

